Vol.．250 「まち作り実施計画」に参加してともに支え合い健やかに暮らせる （平成25年2月25日）

先日「君津市総合建設審議会」に君津市の今後１０年間の「君津市まちづくり構想」平成２５年度から平成３４年度までのうち、平成２５年から２７年までの３年間を対象とした「まちづくりの実施計画」が諮問され、その審議会に参加致しました。

この計画の中で、身近な事をいくつか書いてみました。

ご参考になれば幸いであります。

冠頭に「本市は今後１０年間の将来都市像実現のため！」とありましたが、１０年後の都市像は示されてはおりませんでしたが「少子高齢化によって人口は微減傾向であるので、子育て支援、定住促進、健康増進によって平成２７年の人口目標は89,000人とする」とあります。

人口減対策が現在の人口は89,300人でありますから、如何に困難であるかをこの数字が示しております。私も会頭就任以来「分かち合い、助け合って共に生きる会議所」をビジョンと致して参りましたが、この構想の基本目標もまた「ともに支え合い、健やかに暮らせるまちを目指して」でありました。我が意を得た思いでありました。

商工業については商店会の基盤を充実させて多くの人々が居住し、来訪する魅力ある商店会・・・地域の住民が孤立孤独から救われるコミュニティの場所であり、伝統を守り、文化を育てる絆とにぎわい、買物難民から市民を守る大きな役割がある事を明記されております。

またこの目標を達成させるためにも商店会の高齢化が進まぬ様、後継者の育成が望まれております。最近停滞している商店会本来の活動であるにぎわい市、各種イベント、空き店舗の活用、販促活動をより積極的にする様求めており、行政側も魅力ある商業地形成として、君津駅周辺を初めとして中心市街地の活性化に支援整備計画を進めるとあります。

観光面では君津鴨川線沿いのフルーツライン構想、獣肉加工処理施設の活用によって特産品ブランド化が大きく期待されております。

観光面で意見集中は清和丸山へ幹線道路の早期拡充であり、川名、石井県議も同席しておりましたので手腕を期待したい。

構想は教育文化、医療、環境防災等多方面でありますが、構想の底流にあるものは首都圏にある千葉県でも始まっている限界集落化であり、都市圏の中心にある大団地の中までガンの様に広がる孤立社会への対応であります。今君津市は凡そ高齢者22,000人、独居老人1,900人、認知症2,000人、要介護認定者3,300人がおられます。

先日、市の監査の中で会議所への補助金に対する厳しい意見もあったと聞いております。商店会へは多くの市民が買物難民、孤立社会とならぬ様に、にぎやかなコミュニティな商店会広場を求めて、子供達から高齢者まで、ともに支え合い、住み慣れたこのまちで、生き生きと暮らせる商店会、老後を託せる商店会を望む声が大きくなっております。

こうした切実な市民の願いに対し、適切に応えられる会議所、商店会へと本年は論議するよりも、こうしたニーズにスピードを持って挑戦を期待しております。

近代経済、特に商業は「棚ボタ」はありません！